

『子どもにツケを残さない!』『環境未来都市の実現!』
所沢市議会議員 谷口まさのり発行

Facebook で細かく情報
発信しております!

谷口まさのり 所沢市政レポート

『2016年9月議会報告編』/その他活動報告編

連絡先: 〒359-1151 所沢市若狭1-2961-1-213

電話: 04-2941-5111 / FAX: 04-2941-5112

・メール: tani.eco@dream.ocn.ne.jp

・Twitterも頑張ってます!! 『谷口まさのり』で検索下さい!



子どもにツケを
残さない!!



谷口 まさのり

- ◆8月22日の台風9号の浸水等の被害状況に関する質問、そして、今後の台風やゲリラ豪雨時の被害最小化に向けた提言!(一般質問)
- ◆(放課後)学童保育について、小学校内への移設を訴える!(議案質疑)
- ◆子どもの貧困対策、貧困の連鎖を断つ為に…(政策セミナーへの参加など)

上述の一般質問(9/13)の詳細は所沢市議会HPより中継録画をご覧ください。

1) 台風9号の被害状況、今後の台風・ゲリラ豪雨時の被害最小化に向けて(要旨)



←谷口: 8月22日の台風9号に伴う豪雨による、所沢市内の被害概要は?

担当部長: 東川、柳瀬川が氾濫し、それによる床上・床下浸水や一部の河川護岸崩落(柳瀬川沿いの家屋の護岸が崩れたことにより、一時13世帯29名が避難)、また各所の低地において、道路冠水や床上・床下浸水の被害が発生した。更に亀裂・土砂崩れ等が上山口で2か所発生した。



谷口: 床上浸水について質問するが、河川氾濫が原因と考えられる床上浸水の件数と、河川氾濫が原因では無いが、低地になっている為、周辺から雨水が集まり床上浸水に至ってしまった件数を分かる範囲でお聞きしたい。

担当部長: 浸水被害(床上と床下を合わせた)の件数を『エリア別』の個所数で言うと、河川氾濫を主な原因としたものは16か所(エリア)、豪雨による内水(河川水ではなく、人が住んでいる場所の水を内水と呼び、河川の水を外水と呼びます。)が低地に集まった事を主な原因としたものは10個所(エリア)。また罹災証明書の発行の為、調査において床上浸水と判定した家屋数は112件である。(9月9日現在において)

(⇒その後、議会閉会後に総務経済委員会に提出された資料において、9月30日時点での全体被害状況は下表の通りとなっております。)

人的被害	住宅被害					
	全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	計
軽症者 1名	1棟	3棟	8棟	121棟	481棟	614棟

* 全壊、半壊、一部損壊、床上浸水は罹災証明書の発行件数より

** 床下浸水は消毒総数件数から、床上と道路の消毒件数を引いた数

裏面へ



谷口: 今後、同等、それ以上の豪雨の場合、どのような対策を講じることにより、被害が出来るだけ最小化できるのか？ 河川管理、道路管理の部署に取り得る対応を聞きたい。また家の門等から大量の雨水が敷地に入ってくることを防ぐ為の『止水板』が商品開発されており、この止水板に対する補助金制度を作り、自助努力を支援している自治体が増えてきている。例えば、朝霞市、羽生市、杉並区、板橋区などである。このように『止水板』に対する補助金制度を所沢市でも検討しても良いのではないかな？

担当部長: 河川に関しての短期的対応として、今回、水があふれた個所を把握したので、事前の土のうの用意を行うこと、中長期的な対応は今回の被害個所の検証を行い、河川改修が必要な場合、出来る限り速やかに整備の実施や浸水区域の軽減を図る為、雨水を一時的に溜める調整池等の設置の検討をしたいと考える。また道路については、雨水が低い土地に短時間に集中的に到達するまでの時間を遅らせる為に道路に新設する雨水樹の容量を(今より)大きくすることや小型の雨水貯留浸透施設等の設置を検討する。更に『止水板』の補助金制度については、止水板は宅地等への浸水を防ぐ為に有効と考えるので、先進都市の状況を研究していきたい。

2) (放課後)学童クラブの小学校内への移設を！

今回の補正予算議案の泉児童クラブ(いわゆる放課後学童で、現在は私有地を借りて運営)の泉小学校教室内への移転に関して、私、谷口は『今回の泉学童移転案を踏まえ、他の学童で老朽化し立て替えの時期を迎えつつあるところや小学校から学童施設まで離れ、移動時の安全に注意が必要な学童クラブは、今後積極的に小学校内の(空き)教室に移設すべき』と訴えました。

3) 子どもの貧困対策、貧困の連鎖を断つ為に・・・

高校中退を防ぎ、卒業・就職し、経済的自立ができる1つの道筋を確立強化へ

昨今、『子どもの貧困』について、大きくニュースで取り上げられ、埼玉県のホームページでは、生活保護世帯で育った子供が、大人になって再び生活保護を受けることを「貧困の連鎖」といい、専門家の実態調査によると、貧困の連鎖の発生率は25.1%、また生活保護世帯の高校中退率は非・生保世帯より2倍以上高いとされています。私自身、5歳の時に父が他界し、それ以降、母子家庭で育ってきた経験から、この問題を捉える場合、進学を含む自分の将来については、「こうすれば何とかかなりそうだ」という、『展望』や『見通し』を本人が持てるか否かが非常に重要であると考えます。そのような中で、子どもの貧困問題について、今後の政策提言・政策実現に生かす為、6月議会終了後から、子どもの貧困実態や今後の必要な政策について書かれた書籍等を読み(右上写真)、政策セミナー『子どもの貧困・格差問題(東京有明医療大学 千葉喜久也教授)』に参加する等、現在、政策研究を進めております。この問題については生活保護世帯の子どもの『高校進学率』に焦点が当てられがちですが、私としては、重要なのは、いかに高校中退を防ぎ、高校卒業(専門高校等)、そして正規職員として就職し、経済的な自立に繋げることを1つの道筋(あくまでも1つの選択肢)となるよう、状況に応じた施策(学習支援や生活全般のきめ細かな相談支援等)が是非とも必要であると考えております。



◆谷口まさのり経歴・昭和40年北海道生まれ、埼玉大学工学部 環境化学工学科卒業 環境や省エネ企業に15年間在籍・1997 地球温暖化防止 京都会議に参加・2011年4月所沢市議選に当選、現在2期目・趣味等：スポーツ(西武ライオンズファンクラブ会員)、カラオケ、カブト採り、大のビール党、カノエやり・環境カウンセラー(環境省資格)/社会保険労務士(年金と雇用の関連資格)/認知症★駅では原則、始発前からレートを配布しており、『始発の谷口』『始発男』と言われており。